

## モニタリング結果報告書

施設 設 神奈川県立愛川ふれあいの村

指定管理者 財団法人 神奈川県ふれあい教育振興協会

施設所管課 支援教育企画課

(平成 21 年度 下半期)

## 管理運営状況総括

## 1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項等)
10月	11月10日	11月27日	適正に行われている。
11月	12月10日	12月28日	同上
12月	1月8日	1月26日	同上
1月	2月10日	2月26日	同上
2月	3月10日	3月26日	同上
3月	4月9日	4月30日	同上

## 2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

## (1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る  B: 提案どおり  C: 提案を下回る 

## (2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。

## &lt; 提案内容の概要 &gt;

- 安全かつ美観維持を目的とした定期的な点検・巡視を実施し、計画的な植栽、除草整備を行う。また、大雨、強風などの被害があった場合には、必要に応じた対応や整備を行います。

## &lt; 実施状況 &gt;

- 毎月、定期的な点検を行い、時期に応じて計画的な剪定・除草作業を実施している。また、大雨で流された土砂や強風で折れた枝や倒木は、職員の勤務体制を変更し、迅速に対応した。

## &lt; 提案内容の概要 &gt;

- 市町村の教育支援センター等との連携により、不登校児童・生徒の学校復帰の支援事業を行う。また、適応指導教室だけではなく、フリースクール等との提携をすすめるなどネットワークを拡大し、より多くの子どもたちが事業に参加できるようにする。

## &lt; 実施状況 &gt;

- 職員全員が不登校児童・生徒の支援事業を行えるように、市町村の教育支援センターが実施する研修への参加や協会内部の OJT 研修、更には、臨床心理士の講義を受けるなど、職員の能力向上に努め、次年度の事業に備えた。

**3 収支状況**（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額			支出額	収支差額
	指定管理料	利用料金 (前年同月料 金額)	その他収入		
年間予算額	153,802	150,015	3,067	153,082	0
上半期計 (a)	82,917	75,000	1,462 ( 1,409)	71,334	11,583
下半期計 (b)	79,642	75,014	1,018 (1,459)	84,739	△5,096
10月	12,238	11,015	121 ( 139)	10,196	2,041
11月	11,396	10,545	102 ( 199)	10,279	1,118
12月	19,925	18,764	86 ( 149)	19,673	252
1月	11,382	11,072	112 ( 60)	10,773	609
2月	9,903	9,684	134 ( 221)	10,722	△819
3月	14,794	13,932	460 ( 691)	23,093	△8,298
合計 (a+b)	162,560	150,015	2,481	156,073	6,486

- 1 指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。  
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

**収支状況に関する意見等**

- ・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

**(今期に行った資本的な収入及び支出等の状況)**

	内容	金額(千円)
収入の状況		
支出の状況		
積立等の状況		(期首)
		(期末)

- 収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。  
 支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。  
 積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

#### 4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計 (a)	45,946 人	45,263 人	1.5%
下半期計 (b)	23,786 人	24,429 人	△2.6%
10月	7,069 人	7,961 人	△11.2%
11月	7,704 人	8,780 人	△12.3%
12月	2,478 人	1,765 人	40.4%
1月	1,711 人	857 人	99.6%
2月	1,017 人	1,416 人	△28.2%
3月	3,807 人	3,650 人	4.3%
合計(a+b)	69,732 人	69,692 人	0.1%

#### 利用状況に関する意見等

〔半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。〕

#### 5 苦情・要望等の状況

##### (施設受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月					64	64
11月					58	58
12月					21	21
1月		1			16	17
2月					22	22
3月					63	63

##### (施設所管課受付分)

報告月	口頭	文書	合計
10月			0
11月			0
12月			0
1月			0
2月			0
3月			0

## 6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。

分野	概要	対応状況
施設・設備	・トイレの臭気が強かったのが気になった。	トイレ入口に間仕切りを設置し臭気の漏出を防止する処置を行った。
	・かぶとむし棟外壁(高さ1.5m×幅3m)が落下した。ベニヤ板で応急的な措置を講じたが、落下した部分の他も施設修繕を行う必要が部分もある。	修繕の要望を行ったが、即対応ができないことから県教育委員会と協議し、利用者の安全を確保するため、職員及び関係者以外の施設内及び施設周辺への立入を原則禁止とした。
職員対応	・なし	
事業内容	・なし	
その他	・食堂のテーブルの間が狭い。	食堂ホールの面積に対して、必要な座席数やビュッフェレーンのスペース等を考慮すると対応は困難である。

## 7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、行政システム改革推進課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

発生日	概要・対応状況等
月 日	
月 日	
月 日	

## 8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日			
月 日			

## 9 下半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指定管理者

### ◇施設の維持修繕

宿泊棟や体育館の雨漏り、トイレの悪臭、自然観察棟の老朽化による使用中止など、施設の維持管理について課題は多く、安心・安全な施設を目指し、職員や業者による小破修繕を行ってきたが、今後も県と連絡を密にして必要な対策を講じ、利用者の安全・安心を確保していきたい。

### ◇食品の安全管理

年間を通して職員が点検に立ち会い、食堂業者と共同して食の安全確保に取り組んだ。今後も職員と食堂業者の点検や安全管理を徹底させるなど、食の安全管理体制の強化に努めていきたい。

### ◇保健衛生管理

新型インフルエンザが大流行した一年であり、主催事業の期間を短縮したり、学校利用でのキャンセルや日程変更等の対応に追われたが幸いにも大きな事件、事故もなく全職員が一丸となって乗り切ることができた。今後も保健福祉事務所などの関係機関と連携しながらインフルエンザウィルスなどの病原菌に関する情報収集に努め、職員や食堂業者等に周知徹底していきたい。

### ◇不登校対策自然体験活動事業の取組み

次年度から不登校対策自然体験活動事業にも取り組むこととなるため、職員の資質向上を図るため研修を行うなど、事業が効果的に展開できるよう準備を進めてきた。

今後は市町村の教育支援センターを訪問し、児童・生徒の状況を把握し、効果的なプログラムの適用や、事業実施へ繋げていきたい。

施設所管課

○ 施設の大規模改修については対応が難しい部分もあるが、引き続き所管課として関係室課に対し修繕要望(100万円以上の工事)をしていきたい。

○ 新型インフルエンザの影響等で前年度に比べ利用者数は減ったものの、日程変更等の対応により最小限度(前年度1割以内)に押さえることができたことは評価できる。

○ これまで主に足柄ふれあいの村で実施してきた不登校対策自然体験活動を次年度から愛川ふれあいの村でも取り組むこととなったため、職員の研修等を開始するなど次年度に向け準備を進めており、今後の不登校対策自然体験活動事業の展開に期待できる。